

令和3年度 海洋プラスチックごみ等流出抑制対策事業の実績について

〔環境政策課〕

1 事業の目的

環境省の調査によると、海洋ごみの8割は陸域で発生したごみが河川等を通じて海に流出したものであるといわれていることから、本事業では、河川等に網場（あば）を設置して、流れるごみを堰き止めることで、海洋ごみの削減を図る。

2 これまでの取組

（1）令和元年度

令和元年度は、市内70河川について、河川付近の住宅地や公園、コンビニ、農地等、ごみが発生する要因を机上検討し、ごみの発生する可能性が高い10河川を選定。さらに現地調査の結果、ごみが多かった5河川について、12月の5日間(日中のみ)網場を試験設置した。

（2）令和2年度

令和元年度の実績を踏まえ、ごみの多かった3か所で8月～9月の2か月間、網場を設置した。設置時間は24時間とし、ごみの回収は週1回～3回とした。

3 令和3年度取組

5月から10月にかけて6か月間、網場の長期設置を行った。設置時間は24時間とし、ごみの回収は週1回～2回とした。また、網場の安全な運用のため、スマートシティ政策の一環であるセンサーネットワークを活用した水位監視システムを設置し、8月から運用を開始した。



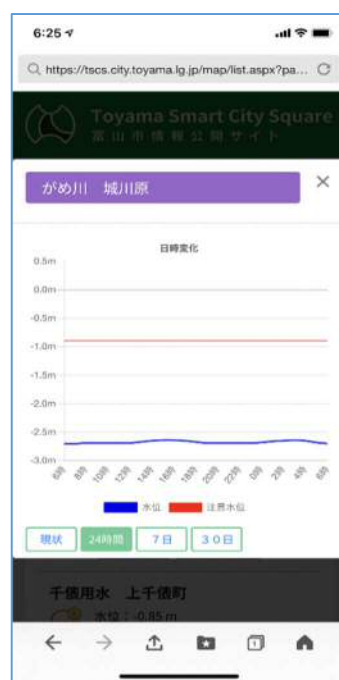
【がめ川】



【水位計】



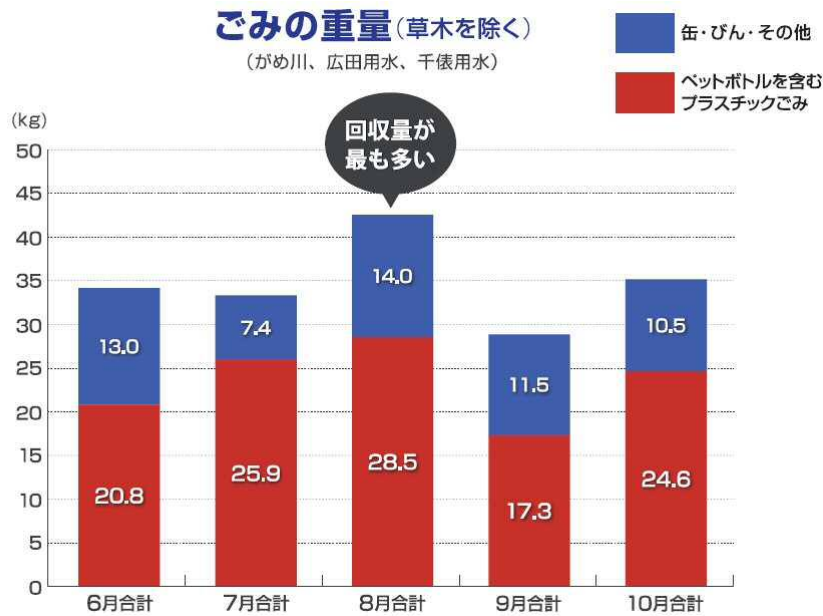
【富山市情報公開サイトによる水位計データ】



4 令和3年度の実績

(1) ごみの回収量

5月から10月のごみの回収量は、最も多く回収された「がめ川」で153kg（うちプラスチックごみが102kg）、3か所合計で総重量178kg（うちプラスチックごみ120kg）、全体の67.4%がプラスチックごみであった。また、8月の回収量が最も多く、コロナ禍ということもあり、マスクごみが多くみられたことも特徴的であった。



回収したごみの種類



プラスチックごみ
(ペットボトル以外)



ペットボトル



缶・びん



その他

(2) 水位の変化による網場設置への影響について

水位計導入前は、大雨が予想される際、事前に、網場の引き揚げを行っていたが、水位計導入後、天候による水位の変化が大きい「がめ川」でも、災害級の大雨時を除き、網場を引き揚げる必要性がないことが分かった。また、水位計で10分ごとに水位を確認することができるため、より安全な運用を行うことができた。